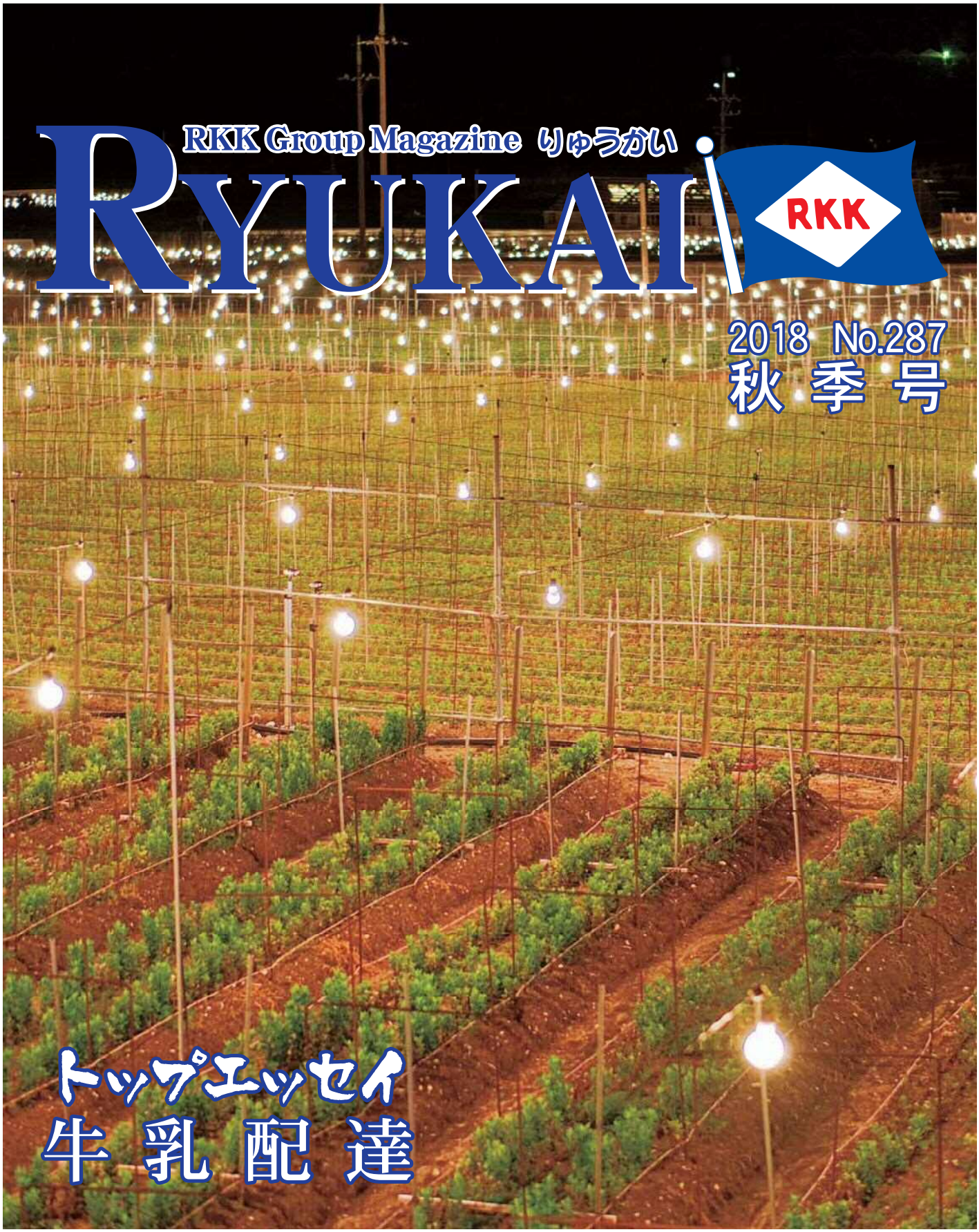
RKK Group Magazine りゅうかい

RYUKAI



2018 No.287
秋季号

トップエッセイ
牛乳配達

夢とくらしと文化をはこぶ
琉球海運株式会社

琉球海運グループ

沖縄港運㈱	宮古港運㈱	八重山港運㈱	沖縄荷役サービス㈱	㈱沖縄急送
㈱沖縄輸送サービス	㈱九州輸送サービス	㈱きょうはい	国際輸送㈱	琉海リース㈱

トップエッセイ

牛乳配達

国際輸送株式会社
代表取締役社長　宮城　勝

台風二十四号、二十五号の通過後、南国、この沖縄でも涼しい風が吹き、秋の気配となり季節の移り変わりを感じる気候となりました。国際輸送が管理運営するＲＫＫ西洲低温センター（ＲＩＴＣ）では、台風二十四号通過時に停電が発生。倉庫内温度を確認しながら商品移動を準備していましたが、幸いにも電気が復旧し大事には至りませんでした。しかしながら、西洲地域のみならず、伊奈武瀬や港町でも停電が発生し商品の損傷被害が出た施設もあった様です。本島に於いてこれだけ被害をもたらした台風は久しぶりの事ではありますが、琉球海運が建設中の物流施設においても停電時の対応を再検討する等、従来より大型化、強力化し、毎年来襲する台風への備えを見直す必要性に迫られています。グループ連携し取り組むべき課題となります。県内に於いては農作物にも多大な被害が発生しており、花卉を含め農作物の輸送量にも影響があると思われます。早期の回復を祈念いたします。

業務紹介

さて、今回はあまり知られていない国際輸送の業務を紹介したいと思います。上述したＲＩＴＣの管理・運営の他、事業の柱は沖縄明治乳業㈱様より受託する、小中学校への給食用牛乳の配送業務があります。北部の一部地域は協力会社へ委託しておりますが、名護市より南の本島内を十六コースに分けて配達。こども達の安全性に配慮し小中学生の登校時間を避け行うため、出来るだけ早朝に各学校へお届けします。早い学校では未明の真っ暗な中、給食室へ納品しています。公共性の高い業務のため、安全、確実な配送を心掛けています。学校配送後は、明治乳業の商品（ジュースやデザート）をご注文いただく病院や高齢者施設、保育園等へ配達。給食終了後の空き箱の回収までが業務となります。早朝の時間帯に配達するため、運転手は、家族が夕食を取る時間帯には就寝することとなり、生活のリズムが異なることになります。大変そうなイメージですが、慣れると最近深刻化している昼間の渋滞に巻き込まれない等、良い面もある様です。

先日、業務内容を知るべく那覇・浦添コースのトラックに同乗し業務を体験しました。まず始めは、未明に沖縄明治乳業㈱様でのトラックへの積み込みです。当日の配送伝票を確認し牛乳を積み込みます。オーダー分、トラックの六割程度を積載し出発です。学校での配達は三階建ての校舎の場合は各階に牛乳保管用の冷蔵庫があり、エレベータを利用し配達します。冷蔵庫へ納める際には、各学年クラス毎に必要数量をカゴに入れカゴ毎納めます。その他教職員用やなかよし学級分も分けて入れます。そこまで細かく納品している事は想定外でした。一クラスの人数は三十五名が目安となるので積み込み時、カゴには三十五個ずつ牛乳が入っています。冷蔵庫の棚には貼られている各クラスの人数を確認しながら必要数になる様、牛乳を足したり、引いたりしながらカゴを納めていきます。余る事もあるので調整用の空のカゴも予備として持って行きます。浦添市内小中学校７校の配送が終わると一旦戻り、その後配達する病院、高齢者施設、保育園分の積み込みです。給食用牛乳と違い商品のアイテムが多く、アイテム毎に出荷される商品を納品先毎にカゴへ手分けするため、少々手間がかかります。再出発後、病院、高齢者施設の配送途中で六時頃となり夜が明け始め、七時前後になると職員が出勤する保育園への配達が加わります。運転手は長年このコースを担当しているとの事で顔見知りらしく、慣れた様子で配達先の職員と丁寧に挨拶を交わしている事が印象的でした。十時頃配送終了したので、そこでトラックを降りましたが、運転手は二時間程度休憩を取り給食終了後の空カゴを回収し一日の業務が終了となります。

この業務は国際輸送が受託し七年が経過しました。台風による給食中止時の牛乳回収や、トラック故障時には運転手同士連携し無事配送を完了する等、様々な事がありますが、今後共、こども達の大切な給食用牛乳を安定してお届けする様取り組んでまいります。

マラソンシーズン

話は変わりますが、涼しくなったこの時期はマラソンシーズンとなります。十一月の「尚巴志ハーフマラソン」に始まり、十二月は「ＮＡＨＡマラソン」、二月の「沖縄マラソン」までの三レースへの参加が恒例となっており、今シーズンも出走予定です。特にＮＡＨＡマラソンは平成十八年より参加、昨年まで十二回連続完走しているレースです。単身で福岡へ赴任し健康管理のためジョギングを始めました。「フルマラソンは危険では」と言われる方もいますが、定期的に走ることで体重を維持していること、医者に罹る機会が減っている事から、体力が付いたことも含め、健康維持に効果があると感じています。又、走る時の呼吸は「吐く」事を強く意識していますが、「吐く」事は副交感神経が刺激される事により、ストレスを解消する効果がある様です。走られる方は試してみてはいかがでしょうか。福岡で走り始めてから十年以上となりますが、五十代に入り走り方は年相応を心掛ける様になりました。四十代の頃は五時間切りを目標に「少しでも早く」とタイムを意識してましたが、最近はきつくなると「ユックリいこう」と心掛け五時間一〇分～二〇分を目標に無理せず無事ゴールする事を目指しています。完走後のダメージをできるだけ押さえることと、楽しみにしている慰労会のためにも。

福岡支店勤務時代のマラソン大会にて

星乃珈琲店
10月13日(土) グランドオープン

アノ「星乃珈琲店」が沖縄初進出！

十月十三日「那覇オーパ」にて今年度、琉球海運グループとして発足したスター沖縄㈱の運営で沖縄初出店となる「星乃珈琲店」がオープンいたしました。オープン初日は休日ということもあり満員御礼で順番待ちの列が出来るほどの賑わいで、現在も変わらずその盛況ぶりが見られます。

店内は黒や茶色を基調とした落ち着いたシックな内装で、コーヒーやスフレパンケーキ等の喫茶メニュー以外にもビーフシチューやオムライスなどの食事メニューもあり、喫茶と食事、どちらでも楽しめる喫茶店となっています。

看板メニューのスフレパンケーキはボリュームがありながらもふわふわで軽い口当たり、一杯ずつハンドドリップで淹れるコーヒーは本格的な味でどちらも非常に美味しかったです。また軽食での個人的なオススメはビーフシチューで、濃厚なルーに柔らかくとろけるようなビーフの口当たりがマッチしていて何皿でもおかわりしたくなりました。(笑)

今回、星乃珈琲店が入居している「那覇オーパ」は二〇一三年に沖縄から撤退したオーパが沖縄の中心部・那覇の泉崎エリアに十月十三日、再進出したものです。場所はゆいレール旭橋駅に直結した「カフーナ旭橋A街区」内の二～三階で、ストアコンセプトは「CONNECT∞OKINAWA」、沖縄の「食」と「飾」をテーマに星乃珈琲店以外にも沖縄初出店の二十四店舗を含めた約五十店舗が勢揃いです！

那覇オーパにご用の際は是非、星乃珈琲店にお立ち寄りください。

落ちついた雰囲気にハンドドリップのコーヒー。女子会にもうってつけ

住／沖縄県那覇市泉崎1丁目20番1号
営／8:00～22:00（LO 21:30）
モーニング Open～11:00
ランチ（平日）11:00～14:00

RKK Group News

「海の日」海事関係功労者表彰

七月二十七日㈮、かりゆしアーバンリゾート・ナハにて『平成三十年「海の日」海事関係功労者表彰式典』が行われました。この表彰式は「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う日」である海の日を国民に広めるために開催されております。当社からは沖縄総合事務局長表彰の優良船員部門にて二名の職員が表彰を受けました。受賞おめでとうございます。

優良船員

機関長　久高雄健

甲板長　平良保

平良甲板長

久高機関長

RKK Group News

RKKグループ管理職セミナー

八月二十二日㈬、RKKグループ管理職セミナーが開かれ、各グループ会社より管理職総勢三十八名が参加されました。まず初めに寺内顧問の講演会が行われ、我が国を取り巻く様々な海事政策から琉球海運の取組みについての説明がありました。また今回は沖縄県職員による「おきなわ県政出前講座」として大型MICE施設の設備についての講座も行われました。講座ではMICEの需要推計や交通アクセス、東海岸地域の振興についての概要が説明されました。セミナー後はホテルにて懇親会もありRKKグループの結束力も一層高まりました。

講演会の様子

懇親会にて

RKK Group News

長嶺小学校 にらいかないⅡ見学会

十月二十三日㈫、沖縄総合事務局主催にて豊見城市立長嶺小学校の五年生総勢七十七名が「海事教室」のモデル校として、にらいかないⅡの見学会が実施されました。児童らは事前学習として前日に沖縄水産高等学校の講師から物流や海運業の講義を受け、当日は乗組員と職員の案内にて荷役風景、ブリッジ、甲板を見学しました。ブリッジ見学では船長らの説明と共に実際に計器にも触れることで大変貴重な経験になったことでしょう。また、見学後には発表会も実施されるそうで、児童だけでなく教員への海事産業の認知度向上にも貢献することと思います。

見学前に記念撮影

海図に興味津々

機関室の乗組員と会話中

RKK Group News

日本政策金融公庫 琉球海運㈱訪問

十月十二日㈮、日本政策金融公庫主催の中小企業事業として首都圏における中小企業の若手経営者の方々に沖縄視察の一貫として、琉球海運㈱本社に訪問して頂きました。訪問では宮城常務より「沖縄の経済状況と貨物輸送量の推移」というタイトルで、沖縄県の入域観光客数の増加及び経済成長の発展に伴う貨物輸送量の増加に対応するために実施してきた設備投資関連の事業についての講演会が開催されました。講演後は活発な質疑応答や具志堅監査役からの補足もあったことから経営者の方々にとっても有意義な時間になったことでしょう。

質疑応答場面

宮城常務・具志堅監査役による説明

サバイバルトレーニング

8月13日(月)、船員会館及び泊ふ頭にて船員災害防止協会による遭難時における船員の生存対策に関する教育訓練を目的としたサバイバルトレーニングがありました。

はじめに船員会館にて船員災害防止協会の安全管理士　團野氏による講演とDVD「漂流から生還へ」を視聴し、その後、膨張式救命筏の構造と取扱説明及び実技を技術講師の指導の下、泊ふ頭2号岸壁にて行いました。今回実演したのは船舶部の上間さんと総務部の山入端さんでした。トラックから落とされひっくり返って開いてしまった筏を実際に海へ入り2名の力だけで元に状態に戻します。実演を見ていると非常に大変そうでお互いの息が合っていないと中々反転させることが出来ませんでした。日頃から訓練をして技術を学び、冷静に対応することが重要だとわかりました。

取扱説明中

協力して大きな筏をひっくり返します

無事元の状態になりました！

海水も滴るいい男達！お疲れ様でした！

八重山港運(株)　社内安全衛生委員会

10月15日（月）に平成30年度第4回社内安全衛生委員会が行われました。

今回の安全衛生委員会では、今年5月に市民救急ステーション認定証（市民救急ステーションとは、石垣市が日本一安全で安心なまちづくりをめざし、平成25年7月より「市民救急ステーション」制度を制定し、市民及び観光客が、急病や不慮の事故で心肺停止などの危篤状態に陥った場合、近くの公共施設や事業所等のＡＥＤを活用し、多くの命を救える体制を目指し、市内170カ所余の事業所に登録をしている）を受けたこともありＡＥＤを使用しての心肺蘇生法の説明・訓練を行いました。

訓練では、石垣市消防本部より借用した訓練用のＡＥＤとダミーのマネキンを使用し、2名の補助者（119番通報役、ＡＥＤの準備と使用役）と私、山城が倒れているマネキンへの胸部圧迫と人工呼吸役で行い、無事に訓練を終了することができました。

今回は社内安全衛生委員会のメンバー8名程への説明・訓練となりましたが、職場だけではなく、普段の生活の中でも起こりうることでもあるので、職員をグループごとに分けての説明・訓練を行い、誰もが実践出来る体制づくりが重要だと思いますので、今後も継続して行っていきたいと思います。

総務部　山城

1950倶楽部 第4回懇親ボウリング大会

9月20日㈭、第4回1950倶楽部懇親ボウリング大会が行われました。1950倶楽部とは、2005年に琉球海運を含めた1950年創業の県内7社から結成された委員会であり、現在では県内12社が参加し、地域の清掃活動などの社会貢献活動に取り組んでいます。

この大会は毎年開催されており、1950年倶楽部の社員が交流を行うイベントです。今回は琉球海運から若手8名が参加し、ボウリングとBBQで様々な業種の方々との親睦を深めました。

肝心のボウリングの結果ですが、企業別ではなくレーンのチーム別で山入端さんのチームが優勝し、個人賞では野原さん、喜舎場さんが入賞しました。ちなみに、本記事担当の藤田はブービー賞をいただきました・・・

ボウリング、BBQを通じて楽しい時間を過ごすことができた懇親会でした。

今後とも、琉球海運は1950倶楽部の一員として活動を続けていきます。

りゅうせきさん、光文堂さん、沖縄食糧さんと

チーム別で優勝した山入端さんチーム

個人賞入賞 野原さん

個人賞入賞 喜舎場さん

宮古港運(株)　オリオンスーパーベースボール

8月5日㈰に　オリオンスーパーベースボール2018、1回戦　宮古港運VS砂川鉄工ヤンマーの試合を行いました。今年からオリオンスーパーベースボールでは、シニアの部が新設され40歳以上が3名以上いれば良いので、エントリー条件は整っていたのですが、まさかの一般の部でのエントリーとなりました。（まだまだ気持ちは若いそうです。）

試合はというと、白熱した投手戦を繰り広げ、いい戦いをしましたが、結果は残念ながら3対0で敗れてしまいました。

結果は残念でしたが、チームワークを存分に出して、いいコミュニケーションの場となり、楽しい大会となりました。来年こそは勝利を手にしたいと思います。

総務部　仲間

RKKグループ 観月会

RKKグループ

９月25日(火)中秋の名月のもと、琉球海運グループ合同の観月会が開かれました。当日は総勢190名の皆さんが参加し、琉球海運総務部・石新部長の開会の挨拶で幕を開けました。今年の司会者は甚平と浴衣姿で登場！さらには沖縄急送㈱の余興もあり会場は大盛り上がりでした。観月会終盤には、豪華商品の当たる抽選会もあり、今年もグループ各社の方々との楽しい懇親のひと時となりました。

チームスター沖縄★

営業部代表インスタグラマー！

急送さん、余興ありがとうございました！

上間さん白目笑

沖縄港運㈱

9月18日（火）コスタビレッジエスパーナにて、沖縄港運の観月会が行われました。総勢166名の皆さんが参加し、中部支店の知念さんの挨拶から始まりました。毎年恒例の早飲み大会から始まり、豪華景品や、三線で歌を歌ってくださった方もいて、盛大に盛り上がりました。今年も、浴衣・甚平で参加してくれた方もいて、良かったです。今回は、最後まで天気にも恵まれて笑顔の絶えない楽しい観月会になりました。

気合い十分！

恒例ビール早飲み競争！

カチャーシー！

沖縄荷役サービス㈱

10月13日(土)沖縄荷役サービス㈱に社名変更して始めての観月会（月･･･見えたかなぁ(^o^;)）を開催しました。少し肌寒く、遅めの観月会ではありましたが、多くの従業員が参加し楽しい時間を過ごすことが出来ました。来年はぜひ家族も呼んで開催できるように頑張ります。

ミニゲームに気合い十分！

「りゅうかい」川柳大会結果発表!!

2018年「りゅうかい」夏季号で「夏」をテーマに募集開催いたしました川柳大会、42作品のご応募がありました。本社職員の男女、そして若手からベテランまでの幅広い世代の方で構成された選考委員会で審査の結果、以下の川柳が選ばれました。

グランプリ

脱メタボ　減らぬ体重　増す出費

八重山港運㈱　総務部　**宮良　翔**

コメント　直接的な夏のキーワードはないが、いかにも夏らしさが感じられます。また我が身に置きかえて親近感が湧いた。体重を減らすためのスポーツジムへの出費でしょうか？減と増の対比もありリズムが良い。皮肉交じりでおもしろい。

特別賞

台風だ　対策、片付け　また台風

宮古港運㈱　総務部　**仲間　寛則**

コメント　毎週直撃する台風を体現していて、選考委員の皆さんの共感を得て、得票数は一番多かった作品ですが、川柳の基本的なリズム五・七・五を踏み外しており、残念ながら中七・下五で字余りがある為、全体のリズムに難がある。ということで特別賞にさせて頂きました。

佳作

夏の日の　リフトのシート　焼ける尻

㈱沖縄急送　作業部　**川満　文昭**

コメント　沖縄の夏、ジリジリと暑い作業現場の情景が思い浮かぶ「ザ・現場」の作品ですね。

台風や　来るなら先に　連絡を

沖縄港運㈱　総務部　**親川　俊郎**

コメント　今年の台風は大規模停電も引き起こしたことから連絡があれば準備が出来たのに？恨み節。

不定期船　夏はどこでも　行きますよ

琉球海運㈱　営業部　**池内　陽木**

コメント　冬はさとうきびー営業担当の意気込みが伝わってくる完全業界向けの作品でした。

外歩く　僕の避暑地は　コンビニだ

琉球海運㈱　企画部　**仲村　周也**

コメント　灼熱の路地のオアシスはコンビニだよね。共感多数。

次点句

○**夏休み　自由研究　父のもの**　沖縄荷役サービス㈱　総務部　**平良　剛**

○**渇いてる　のどと身体と　恋心**　琉球海運㈱　企画部　**仲村　周也**

○**汗拭う　腕は半分　黒光り**　宮古海運㈱　配送部　**山口　智**

たくさんのご応募ありがとうございました。

俳句への誘い(4)

監査役　**具志堅　忠昭**

秋になりましたね。俳句では立秋から立冬の前日まで（八月七日ごろから十一月六日ごろ）が秋にあたります。秋といえばどんなイメージですか。夏のうだるような暑さが過ぎ、空気は澄んで涼気を感じ（新涼）、（秋晴れ）の空は高く青く、（月）もひときわ美しい、そんな（爽やか）な季節ですね。ちなみに括弧で囲んだ言葉はすべて秋の季語です。涼しさは暑さの中で感ずるもので夏の季語になるが、新涼は初秋の新鮮な涼しさを表す季語として幾多の俳人に好まれています。

新涼や手織木綿の肌ざはり　石田あき子

人それぞれ書を読んでゐる良夜かな　山口青邨

名月や妻は臨月トタン屋根　伊地秩雄（当社元社長）

秋といえば食欲の秋もありますね。十月ごろが旬で、秋の代表的な大衆魚といえば何と言っても秋刀魚でしょう。今年は豊漁で殊のほか庶民のふところにやさしく、私もさっそく恩恵にあずかり、旬を味わったところです。ところで東日本大震災後はこれまでの穏やかな日常が吹っ飛び、何気ない日常の有難さをしみじみとあらためて感じました。

秋刀魚焼くことの日常噛み締めて　忠昭

秋刀魚焼く日常穏やか有り難し　忠昭

秋になるとさまざまな鳥が日本に渡ってきます。遠く海を渡り山を越えて群れをなしてやってきます。沖縄では寒露の頃、サシバ（タカの一種）の群れが飛来します。サシバの南下コースは日本中から大隅半島の佐多岬に集結し、東南アジアを帰る途中沖縄の島々に飛来します。とくに宮古島、伊良部島は休息地として有名。保護鳥となる前の一九六〇年代ころまでは、当地では自然が与えてくれた恵みとして料理して食すこともあったようですが、捕獲が禁止された復帰後は、宮古島に野鳥の会が発足し、サシバを守るためのパトロールを実施するとともに、飛来数の記録や保護活動を行っています。近年飛来数が減少傾向にあり、その因果関係が懸念されています。

サシバ飛ぶ波立つ島は尖閣か　忠昭

サシバ飛ぶ降り難き島となりしや　忠昭

爽やかな秋も晩秋にさしかかると、幾ばくかの寂寥感が募ってくるものです。人生を四季に例えれば、秋は現役を退き終盤に向けて第三コーナーを曲がりかけたところでしょうか。俳句では「行く秋」「秋惜しむ」「冬近し」「そぞろ寒」等の季語で表現します。平成二十六年秋に高倉健さんが亡くなった時、一つの時代が終わったなとしみじみと思いました。

行く秋や高倉健とその時代　忠昭

そぞろ寒カレンダー残り二枚なり　忠昭

次回は冬・新年になりますね。それまで新酒を傾けつつ行く秋を惜しみましょう。